

## 社会人としての自覚を新たに

### 平成18年度美郷町成人式

平成18年度美郷町成人式が8月15日、仙南公民館で行われました。

今年度の成人式は、前年度に満20歳を迎えた方を対象に3地区合同で行われ、新成人302人のうち239人が出席して、社会人としての自覚を新たにしました。

式典には、町議会議員や中学校時代の恩師など多数の来賓が出席。松田町長から、3地区の新成人の代表者にそれぞれ成人証書が手渡され、新成人を代表して竹谷智史さん(下新町)が「美郷町民としての誇りと、社会人としての自覚を胸に、自分の人生を力強く歩んでいきたい」と謝辞を述べました。

式典後には、本町出身で全国的にその活動が評価されているカリスマダンサー、TOZAWAさんを講師に記念講演が行われ、自身のダンサーとしての経験から「好きなことを少しずつでもやめずに続けていくことが大きな力になる。皆さんも自分の好きなことに向かってがんばって欲しい」と新成人に励ましの言葉が贈られました。



▲謝辞を述べる竹谷さん



▲記念講演講師のTOZAWAさん

## 通学路の安全を強化

### 青色回転灯パトロール車出発式



▲千畑庁舎前で行われた出発式



▲巡回中のパトロール車

町では、子どもたちが安心して暮らすことのできる安全なまちづくりを推進するため、青色回転灯を装着した公用車による防犯パトロールを実施します。

青色回転灯は警察以外の団体による防犯パトロールの犯罪抑止効果を高めるため、おとしから認可を受けた団体の車両に装備が認められるようになったもので、青色回転灯を点灯したパトロール車が町内を巡回することにより、子どもを狙った犯罪の抑止や地域の防犯意識の向上を図ることが期待されます。

8月23日には役場千畑庁舎前で青色回転灯パトロール車出発式が行われ、警察関係者や学校関係者、町職員が見守る中、パトロール車が出発しました。

パトロール車は小中学校の下校時間にあわせて町職員が運転し、通学路やその周辺で防犯を啓発する広報活動しながら巡回しますので、町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

## 美郷町の自然を満喫したい

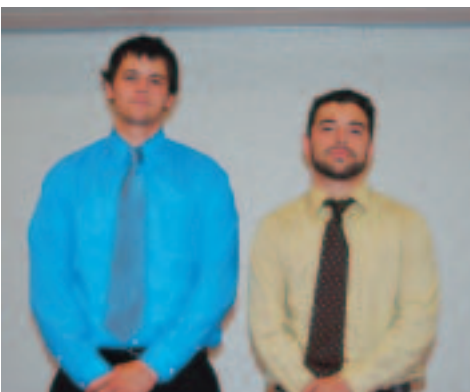
### 千畑中学校に新ALTが着任

千畑中学校で外国語学習をサポートするALT(外国語指導助手)をしていたブライアン・クーパーさんが8月3日に退任されたことに伴い、新しくマイケル・ロワートさんが来年の8月までの任期で着任されました。

着任されたマイケルさんは、アメリカ合衆国インディアナ州出身の23歳。大学で教育学と政治学を専攻し、教員資格を取得しています。スポーツが得意で、特に屋外での活動に興味があり、美郷町の自然を満喫したいそうです。また、芸術にも関心があるということでした。

◆  
マイケルさんが参加する英会話講座を毎週火曜日を中心に午後7時30分から午後9時まで、千畑交流センターで開講しています。受講を希望される方を随時受け入れていますので、英会話に興味にある方はぜひご参加ください。

【千畑公民館・生涯学習英会話講座 申込先】  
千畑交流センター ☎0187(85)2593



退任されたブライアン・クーパーさん(写真右)  
着任されたマイケル・ロワートさん(写真左)

# 子どもと地域を犯罪から守ろう

## 六郷小学校「地域安全マップ」作製講習会



地域の人々にインタビュー



先生も児童と一緒にマップ作りに取り組む



みんなで作ったマップを発表



写真やイラストを使って作られたマップ

小学校の夏休み期間中の8月7日、六郷小学校4年生の児童を対象に「地域安全マップ」作製講習会が開かれました。「地域安全マップ」は、犯罪が起こりやすいと思われる場所を記した地図のことで、自分で描いた地図などを使って、注意が必要な場所や危険な場所を撮影した写真を貼ったり、その場所を説明するコメントやイラストを書

き込み、通学路やいつも遊びに行くときに通る場所に注意すべき場所がないか、確認するための地図です。子どもたちが自ら地図を描き、「危ない」「不安がある」と思ったことを形にさせることで、地域に潜む危険を再認識させることができるほか、先生や保護者の皆さんにも子どもたちの通学路や遊び場を把握することができ、効率的なパトロールが可能となります。

講習会は危険な場所はどこなところかを知ることから始まり、9班に分かれた子どもたちが班長、副班長、地図係、写真係、インタビュー係とそれぞれ役割を分担。続いて行われたフィールドワークではその役割に従って、子どもたちが自らの足で地域を歩き、町並みの観察やそこに住む人々へのインタビューを通して、危険な場所を確認しながらマップを作成するための情報を収集しました。通りかかった地域の人々に、インタビュー係の児童が「犯

罪にあうかもしれないと不安になる場所はありませんか？」と質問すると、そこに住む人でなければ気付かないような危険が潜む場所を説明してくれて、インタビュー係は真剣なまなざしでメモを取っていました。

フィールドワークを終えた子どもたちは学校に戻って、写真係が撮影してきた写真や色紙、色鉛筆などを使ってマップを作製。完成した地図は、大人が見てもあらためて気付かされる情報が多く、マップ作りの意義が感じられました。

